

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	市民生活部		
	課名	生活環境課		
	係名	環境保全係		
	記入者		電話(内線)	165

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	<b>継続</b>	(2) 事務事業 の名称	環境基本計画推進事業	(3) 事業の 優先度	<b>A</b>
(4) 総合計画での位置づけ		(6) 事業主体		市	
① 事業の区分	<b>主要事業</b>	(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質	一般事業費(ソフト事業)
② 施策コード	26101 (総合計画掲載 <sup>ハ</sup> - <sup>ジ</sup> 89 <sup>ハ</sup> - <sup>ジ</sup> )	会計区分	一般会計		
基本目標(政策)	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)	財源区分	市単独		
基本施策	2-6地球環境にやさしいまちづくり(環境保全・排水処理)	予算科目	款	項	目
施策	①循環型社会の形成	予算書上の 事業名称	(予算書 <sup>ハ</sup> - <sup>ジ</sup> に掲載)		
施策内容	1本市の環境の保全及び創造についての基本理念制定	(8) 事務分類		自治事務	
(5) 事業期間	開始 平成 23 年 4 月から 終了 年 月まで ( 力年)	根拠法令	環境基本法		

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
環境施策に役割を果たすべき全市民。	地球温暖化をはじめ地球規模の環境問題から、大気・水・土などの生活に密着した地域の環境問題の改善を図るための基本となる計画を策定し、環境都市宣言にふさわしい環境施策を展開することで、市民、事業者、市それぞれの役割を果たすことにより、市全体が環境に配慮したまちづくりを目指す。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
計画を策定し、環境目標を設定し、施策ごとに、取り組み指標をつくり、市が目指す環境像を達成していく。	環境基本法第7条に基づき、環境の保全に関する施策を展開し、市全体が環境に配慮したまちづくりを目指すため。近隣の市でも、整備されつつある。
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境、市民ニーズ等) や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
社会経済の成長や生活様式の変化に伴い、従来から大気汚染や水質汚染の公害問題に加え、地球温暖化をはじめ、地球規模での環境問題が深刻になってきている。	

3. 事業コスト

行政評価 実施計画	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映
● 予算内訳	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)
事業内容	27 年度	28 年度	29 年度    30 年度    31 年度
(1) 事務事業費の コスト	事業費		
	報酬		
	需用費		
	委託料		
	印刷製本費		
合計			
財源	国庫支出金 (千円)		
	県支出金 (千円)		
	地方債 (千円)		
	その他特定財源 (千円)		
	一般財源 (千円)	0	0
合計 (千円)			
補助・起債制度名			

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）							
指標名	審議会実施回数	目標値		0	0	0	3
		実績(見込)値		0			
指標名		目標値					
		実績(見込)値					
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）							
指標名		目標値					
		実績(見込)値					
		達成率		%	%		
指標名		目標値					
		実績(見込)値					
		達成率		%	%		

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	環境に配慮した取り組みを進めるためには、環境基本計画は必要である
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	行政にしか実施できない事業である
	手段の妥当性	A	妥当である	現在の手段が一般的である
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	現在の手法がコストは効率的である
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	市民、事業者、行政への取り組みになっている
有効性	成果の向上	A	上がっている	計画が作成され、概要版を市民に配布したため
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	今後、本市に環境を取り巻く状況の変化をみながら、事業の進捗状況の評価していく

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

今後、本市に環境を取り巻く状況の変化をみながら、事業の進捗状況の評価していく。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

年度ごとに計画の評価を行い、計画の見直しを進めながら、進行管理を行っていく。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	結城市環境基本計画(平成25年度作成)に対して、進捗の注視が重要。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。